

2022年度 第1回 JSR 編集委員会

日時：2022年3月14日（月）19時30分

場所：オンライン（Zoom）会議

出席：長谷川 和宏（担当理事）、大島 寧（委員長）、川口 善治（アドバイザー）
明田 浩司、石井 賢、鈴木 亨暢、高畑 雅彦、竹内 大作、出村 諭、二階堂
琢也、長谷 斉、福岡 宗良
欠席：今城 靖明

陪席：杏林舎／岡田、明松（記）

報告事項

1. 2021年度の委員会活動を学会へ報告した旨が大島委員長より報告された。
2. 検討中であった学術集会の抄録アプリについて、委員の先生方のコンペ評価を元に理事会で検討し、マイスワンに決定された旨が長谷川理事より報告された。

審議事項

ニュースレター（以下NL）調査結果からの課題について

- 大島委員長：現在NLにはJSRに掲載される論文の情報（タイトル・著者名・掲載URL）が簡単に記載されているだけだが、アンケート結果として論文以外に載せてほしいなど情報など色々な意見が寄せられた。
- 高畑委員：載せる企画によっては委員の負担も大きくなるため、委員の人数を増やす必要が出てくると思う。
- 鈴木委員：NLにある論文のクリック数を賞の指標にしてもいいのではないか。また、英語論文を読むのが苦手な先生のために情報収集用として海外雑誌掲載論文のレビューを載せるのもいいのではないか。
- 明田委員：NLに短い要旨を記載するとクリック数も上がるのではないか。
- 長谷委員：SSRRの様にひとこと要約リストを用意してはどうか。
- 長谷川理事：委員からも要旨の案が多いので、トライアルとしてJSSR号で50字程度の要旨を載せてみてはどうか。
- 杏林舎 明松：JSSRのみであれば編集事務局（杏林舎）で要旨を集める事は可能だが今後、他学会でも集めるとなった場合、収集方法の問題が発生する。またSSRRのひとこと要約は掲載号が決定後、著者に執筆依頼をしているが返信があった場合のみ掲載しているため、集まりが悪い号が出てくる可能性がある。
- 石井委員：JSSRから届くNLにはJSRとSSRRのリングがメール内の下の方に記載がされているので記載位置をずらしてもらったり、NLの背景をJSRの表紙色にするなどの工夫を可能であればした方がいいのではないか。
- 二階堂委員：企画物をNLに載せるのは魅力的だとは思いますがクリック数が増えるかという意味では労力に対する効果量が期待するほど得られない可能性が高いので、とりあえずは要旨を掲載してはどうか。

- 大島委員長：アンケート回答には以下の様な意見が届いているが今後内容によっては理事会に報告して頂く形で問題はないか。
“データベースの構築に向けての進捗状況を会員全体で共有したい。現状では各医療機関は情報提供の労力ばかりで、データの利用についての展望が見えない”
- 長谷川理事：JOANAR・JSSR-DBは未だ最終調整中であり、まずフォーマットが完成したら、DBを登録者(JSSR会員)が利用できるようなシステムの構築を理事会・データベース委員会で検討していく予定。
- 長谷川理事：SSRRと同様にレビュアーに対する賞(Best reviewer賞)を増やしてもいいのではないかと考える。

結論

1. JSSR特集号時のNLに短い要旨を掲載する方向とした。SSRRの時と同様に、掲載前に杏林舎から筆者に依頼することにする(50字程度)。
2. レビュー数を基本としたBest reviewer賞、クリック数を基本とした最注目論文賞(ともに仮称)を検討する。
3. データベースについての問い合わせがあること(入力項目が多いこと、展望が見えないこと、自施設データのダウンロードができず台帳と重複すること、など)を理事会にお伝えする。